

島根町～松江市街の旧道調査

藤井 諭

今は亡き母親から、昭和10年代の若い頃の話をよく聞いていた。当時は松江の白湯天満宮のお祭りに毎年行くことを最大の楽しみとしていたこと。松江大橋の南は天満宮まで800mもお店と催しが続く夢のような世界だったこと。しかし自転車も車も普及しておらず、今の県道もトンネルも無い時代で、山道を往復26kmの日帰りで遊びに行った。その足跡に興味を持ち、2年間に渡って実地調査を行なった。

調査の基点は島根町大芦、終点は松江市街として、当時徒歩で使った旧道を歩きながら調査した。その結果を左地図に示す。道赤線は歩いて付けたスマホGPSのトレース図で、5回に分けて4箇所を歩き国土地理院の地図で重ねた。道に迷い込みながらの試行錯誤の繰返しだった。赤丸は歩いていない旧道の想定ルートである。

① 新道峠越え

大芦から御的山に登り新道峠を越えて鹿島町上講武に下る。現在の太平山登山道の一部を歩く。標高250mの山越えはハードだったと思う。

② 持田トンネル越え

“エコクリーン松江”に入る道の、途中から左の山道に入る。峠まで旧道の跡がある。東側を下ろうとしたがヤブが深くなり、元に戻って踏み跡を頼りに西側の急斜面を下り、トンネルの東から県道に降りた。そして不燃物処理場から川沿いにある旧道をトレースした。

③ 真山越え

西持田町小倉の集落から真山に入る旧道を歩いた。竹林の道を進むと真山登山道の4合目付近に合流する。登山道を下ると切通しの真山登山口に至る。

(途中に車を置き一周したため三角形トレースの右辺と下辺は旧道とは無関係)

④ 北田川沿い

車道の切通しからヤブを漕いで尾根に上がると旧道が現れる。切通しのない昔は真山登山道に直結していた。尾根沿いに南に進むと旧道は途中で西に下って、白鹿谷入口大池の下に出る。北田川沿いに進むと常福寺に至り、目指す菅田庵はもう直ぐである。



地図番号①～④での撮影写真



①まずあの山を越える



新道峠が見えてくる



新道峠を下る



下って上講武へ出る



②持田トンネル上の峠



トンネル上から県道21



不燃物処理場横の旧道



旧道を小倉まで歩く



③小倉の集落から真山に入る



竹林の中を登る



峠には寺の跡がある



真山登山道の下にソフトビジネスパーク



④車道切通しの上に旧道がある



ソフトビジネスパークを見下ろす



旧道は白鹿谷大池の下に出る



北田川沿いに歩くと常福寺に至る



菅田庵から松江大橋へ



復活した土曜夜市



今年7月25日の大祭



往時の白濁天満宮

おわりに

島根町大芦から旧道を歩くと山越えて、白濁天満宮までは往復26kmと長距離である。これを先人達は日帰りですべて歩いた。天満宮が楽しすぎて遅くなり、帰りの山道は暗かったと聞いた。今の時代は登山靴やスニーカーで歩け、暗くなったらヘッドランプがあるが、この頃は高価なため履物はワラジ、照明は提灯だったと思われる。貧弱な装備でも長距離の山道を当然のように歩いた先人達の、脚力と精神力には頭の下がる思いがする。我々現代人は先人たちの逞しさを学び、日頃の活動の励みとしたいと思う。

調査活動に当って、山の先輩の今岡紀雄さんと西村英雄さんからの情報を参考に調査した。山仲間の箱石千代彦さんには(有)今岡ガクブチ店発行絵葉書を提供して頂いた。